

国語科学習指導案（略案）

平成25年2月1日金曜日2校時
 中学部 A-1グループ
 男子1人 女子1人 計2人
 場所 ことばの部屋
 指導者 黒木 里香

1 題材 「ものの名前」

2 本時の学習（7/12）

(1) 全体目標

- ア 果物の名前を聞いて、絵や文字カードを選ぶことができる。（聞く・話す、読む）
- イ 始点と終点の印を見て、線を書くことができる。（書く）

(2) 個別の指導計画と個人目標

生徒	個別の指導計画の目標	個人目標
A (2年, 女)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物の名前を聞いたり平仮名を見たりして、絵や文字カードを選択することができる。 ○ 始点と終点を意識して、線をなぞったり書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 果物の絵を見て、問題を最後まで聞いて絵を選び、指さしで答えることができる。 イ 始点と終点をよく見て、長さの違う縦線を書くことができる。
B (3年, 男)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物の名前を聞いたり絵を見たりして、二つの絵から選択することができる。 ○ 始点と終点を意識して、線を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 果物の名前を聞き、絵や平仮名をよく見て選び、指さしで答えることができる。 イ 始点と終点をよく見て、長さの違う横線を書くことができる。

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要

本グループの生徒は、前時までに友達の名前や果物の絵を見たり名前を聞いたりして、絵の中から選ぶ活動を行っている。

本時は、生徒たちの興味・関心が高い果物の名前を扱い、絵の中から選ぶ活動を設定している。このような活動を通して、集中力に課題のある生徒が、絵に注目したり選択肢の中から正しく選んだりする活動に意欲的に取り組むことができ、さらに、文字への意識を高めることができるようになることを考え設定した。

教材・教具とのかかわりについて

生徒たちの興味・関心が高い友達や果物、動物の絵や文字を扱うことで、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。

生徒が、主体的に活動に取り組むことができるように、パソコンの操作を一人でも行えるように工夫したマウスを使用する。

友達・教師とのかかわりについて

友達や教師からの他者評価を取り入れる。具体的には、自分の選んだ絵が正解であった場合は、友達や教師が「ピンポン」の正解音で知らせるようにすることで、友達や教師と関わりながら自分の選んだ絵が正解であることを確認することができるようにする。

自分とのかかわりについて

この活動は、教師の言葉や生徒の手叩き、マウス操作に合わせてパソコンの画面に絵や文字が出てくるように作成した教材を使用する。自分でマウス操作ができるようにすることで、学習課題に意欲的に取り組めるようにする。

授業環境の工夫

集中力に課題のある生徒たちの学習環境として、外部からの刺激が少ない「ことばの部屋」を使用することで、教師の話を中心して聞いたり学習課題に注目したりすることができるようにする。また、生徒たちがお互いの学習の様子を見て、学び合うことができるような座席配置とする。

(4) 実際

過 程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (5分)	<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 本時の学習内容について話し合う。 (1) 前時までの学習を振り返る。 (2) めあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>果物の絵を選ぼう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の姿勢と表情（目線）を確認し、教師に注目できるようになってから挨拶をするように言葉掛けをする。 Bは、教師と一緒に挨拶をすることで、学習の始まりを意識することができるようにする。 前時に扱った教材を見ることで、学習を振り返ることができるようにする。 前時の学習の様子を伝えることで、本時のめあてを意識して、意欲的に取り組むことができるように言葉掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコン マウス
展開 (37分)	<p>3 果物の名前を聞いて、2枚の絵から選ぶ。 (1) 絵と文字を見た後に問題に答える。 (2) 絵を見て問題に答え文字で確認する。</p> <p>4 始点と終点をよく見て、線を書く。 (1) 縦線の短い線や長い線を書く。 (2) 横線の短い線や長い線を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Aは、パソコンの操作をすることで、画面に注目したり意欲的に取り組んだりすることができるようにする。 Bが、学習に集中して取り組むことができるように、必要に応じて具体物を取り扱うようにする。 (1)の学習活動は、果物の絵や平仮名文字で表記された名前を見て、学習課題の「○○はどっち？」の○○の文字を手掛かりにできる問題を準備する。(B) (2)の学習活動は、果物の絵を見たり、学習課題の「○○はどっち？」を聞いたりして、絵と名前を一致させることができる問題を準備する。(A) 始点と終点を意識することができるように、マグネット板を使って、磁石で縦線や横線を書く練習をする。 ワークシートを使って、個別の課題に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコン マウス ※具体物 いちご ばなな ぶどう みかん りんご
終末 (8分)	<p>5 学習を振り返る。</p> <p>6 次時の予告を聞く。</p> <p>7 終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の良かったことを称賛することで、次時の学習活動への意欲を高める。 生徒の姿勢と表情（目線）を確認し、教師に注目できるようになってから挨拶をするように言葉掛けをする。 Bは、教師と一緒に挨拶をすることで、学習の終わりを意識することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> マグネット板 磁石 ワークシート

(5) 評価

ア 果物の名前を聞いて、絵や文字カードを選ぶことができたか。

イ 始点と終点の印を見て、線を書くことができたか。